

WHAT IS OUR MISSION?

作成 ミッションプロジェクト

はじめに

学園創立者

故 小林菊治郎



明治33年 5月25日	大阪府中河内郡堅下村 (現柏原市) に生れる		
大正 9年 3月	大阪府天王寺師範学校本科 第一部卒業	昭和30年 5月	大阪府私立中学校高等学校 連合会副会長
大正 9年 4月	大阪市泉尾第二尋常小学校 訓導	昭和31年 4月	大鉄高等学校長に就任
昭和14年 1月	大鉄工学校を設立、理事と なる	昭和36年 5月	藍綬褒章受章
昭和16年 3月	財団法人大鉄学院を創立し て理事長に就任、併せて大 鉄工業学校を設立	昭和40年 4月	大鉄学園に阪南大学を設置。 同時に大鉄学園理事長兼阪 南大学総長
昭和18年 2月	大鉄工業学校長に就任	昭和45年11月	勲三等瑞宝章受章
昭和23年 4月	財団法人帝国学院(現学校 法人帝国学園) 理事に就任	昭和52年11月	学校法人大鉄学園理事長を 辞任し、同学園理事兼総長 として死去にまで至る
昭和28年 9月	財団法人新森小路幼稚園 (現学校法人大阪聖心学 院) 理事兼園長に就任	昭和56年 9月	全国私立学校審議会連合会 創立30周年文部大臣表彰
		昭和57年10月19日	逝去 正五位銀杯一個受章

学園創立者 故 奥田 政三



明治28年 3月27日	大阪府泉北郡深井村 (現堺市) に生れる	昭和33年 2月	大阪府私学総連合会理事長
大正 7年 4月	大阪府天王寺師範学校訓導	昭和33年12月	大阪府私立中学校高等学校 連合会会長
大正12年 3月	大阪府泉北郡西陶器尋常小 学校長に任命される	昭和34年 1月	日本私立中学校高等学校連 合会副理事長
昭和14年 1月	大鉄工学校を設立、理事と なる	昭和35年 5月	藍綬褒章受章
昭和18年 2月	財団法人大鉄学院理事長 (23・9・30辞任、引き続き 理事)	昭和37年 4月	帝国女子短期大学学長
昭和21年 4月	財団法人帝国学園(現学校 法人帝国学園)理事長	昭和40年 2月	帝国女子大学学長
昭和26年 4月	大阪府府議会議員(至34・ 4・29)	昭和40年11月	勲四等旭日小綬章受章
昭和29年 2月	帝国女子高等学校長兼帝国 中学校長	昭和44年 8月	学校法人玉手山学園理事長
		昭和46年 4月	大阪府私学審議会会長
		昭和46年11月	勲三等瑞宝章受章
		昭和58年 4月	学校法人帝国学園長
		昭和60年10月17日	逝去
			従四位勲三等旭日中綬章受章

1 我々は何を使命としてきたのか？

1-1 第一期胎動期 1930 年代

【昭和14年の大鉄工学校】

本学創設者小林菊治郎先生は、1920（大正9）年、天王寺師範学校（現大阪教育大学）を卒業後、1937（昭和12）年まで17年間、大阪市内の小学校の訓導を勤めていた。はじめて私立学校の創設を抱いたのは、大阪市立中之島小学校に在勤していた時のことである。



宿直室の枕元にあった聖書マタイ伝の「足下を掘れ、そこに泉湧かん」の一節に出会った時、「これは神のこえだ」と叫んだといわれる。そのときに、小林菊治郎先生の思考のさきに、突然、私立学校の文字が閃いた。これが、我が阪南大学の開闢契機となる。

しかし、私立学校の設立は簡単には進まなかった。資金の支援を求めたところ、親戚からの強い反対にあう。とくに実母からは、「今の明星商業学校(1937年から2年間勤務)の教師をしていれば、不自由なく生活ができるのに、なにを好んでそのような苦勞の道を進むのか、考えただけでも私は死ぬ思いがする」と、責め立てられたという。

一時は、諦めかかった小林先生だが、私立学校設立の思いはどうしても捨てられなかった。「男子が一生に一度の大事です。やはり、どうしても心を曲げることはできません。人間は、死を前にして、自分の生命がいくばくもないと知ったとき、自分の過ぎ去った人生を思い起こすということですが、自分の場合はどうであろう、悔いのない心境で果たして死ねるだろうか。このように思いつめてきますと、どうあっても自分の信念は貫こうと決心し、また、くりかえし、くりかえし母の説得にかかったものです」。

やがてついに母も折れ、宿願の私立学校設立に向けて再出発となった。

1939（昭和14）年1月、かつての藤井寺球場の一角に、仮校舎が建てられた。待望の私立大鉄工学校の誕生である。今の土地（松原市天美）に本校舎が建てられたのは、その半年後の7月のことであった。当時、小林菊治郎先生が述べた言葉に、「教育は人間の個性の尊重、人間の個々の能力を信じ、その伸長を追求するところにある。自由な空気のなかで、できるかぎりの人間の可能性を開拓する教育の場を、自分で創ろうと決心した。」とある。

この言葉にいみじくも、今日に至るまでの本学の使命が言い含められているように思う。それは、「自由な気風の中にあって、最大限、学生の能力を伸ばす」ことだと解釈する。

それが後に、「学びの友よ 才能は神よりの業 究むるは君が使命、光ある甲斐ある人生、そこに拓く、もろともにいざ」という大鉄高等学校立学の精神となって表れる。

さらに、小林先生は次のような言葉も残されている。「私の生活信条であり事業信条は、私の考えついた発想は思いきって断行するということ即ち独創と、バランスを崩さない調和である」。

創設者が当時、どのような思いで我が学園を立ち上げたのかをよく表している言葉だと思う。このように、小林菊治郎先生が当時残された言葉の中にミッションのかけらが秘められていると思う。それは“ どうあっても自分の信念は貫こうと決心した ” や、“ 私の考えついた発想は思いきって断行する ” に強く表現されている。

そこに宿っているのは、創設者小林菊治郎の ” 不屈のチャレンジ精神 ” にほかならない。

第一期胎動期 1930 年代 年表

年	月	出来事	先人たちの言葉	キーワード	社会の動き	文化的背景
1937			小学校勤務中の宿直のある晩、「マタイ伝」の一節「足下を掘れ、そこに泉湧かん」の言葉に神の声を聞き、私学の創立を思い立ちました。時に、私は不惑に間近い 35 歳でした。30 にして立つどころか、私は、いま、ようやくにして志したのです。(小林菊治郎総長)		盧溝橋事件：日中戦争	東大教授 矢内原忠雄、筆禍事件
			教育が、人間の個性を尊重することなく画一的に行われるならば、それは、すでに教育とはいえないでしょう。真の教育が、神からあたえられた人間の個々の能力を信じ、その伸長を追求するところにあるということは、論議の必要のない明らかな事実であります。私はこの信念に則って、自由な空気の中で、できるかぎりの人間の可能性を開拓する教育の場を、自分で創ろうと決心したのです。(小林菊治郎総長)	教育は人間の個性の尊重、人間の個々の能力を信じ、その伸長を追求するところにある。自由な空気の中で、できるかぎりの人間の可能性を開拓する教育の場を、自分で創ろうと決心した。		
1938	4 月		「私には、断ちがたい一つの教育的な理念があった。それは公立学校の画一性に対する反撥であった。公立学校は生徒のあつかい方が、いかにも型どおりで、各人各様なそれぞれの人間の個性を育てにくいのでないかということであった。人間としての豊かな情操をもった、おおらかな人。伸び伸びと個性をのびしきった人。そのような人間を育てたいと思う私の夢は、どうしても私学でなければならなかった。」(小林菊治郎総長)	公立学校の画一性に体する反撥。どうしても私学でなければならなかった。	国家総動員法公布	東大教授 河合栄治郎の 3 著発禁
1939	1 月	大鉄工学校創立、創立者は小林菊治郎・奥田政三 校名の由来は、大阪鉄道株式会社(現近畿日本鉄道株式会社)社長佐竹三吾氏の協力を受けたことによる。	私の生活信条であり事業信条は、私の考えついた発想は思いきって断行すること即ち独創と、バランスを崩さない調和である。(小林菊治郎総長)	私の考えついた発想は思いきって断行する。	ノモンハン事件	大学の軍事教練必修科目

1－2 第二期胎動期 1940～1950 年代

1941（昭和 16）年 4 月、大鉄工業学校が開校する。

開校から 2 年間は、それこそ寝食を忘れて働いていたことが、小林先生の回顧録からうかがい知れる。

「朝、家を出る。昼も夜も食べないで、夜を徹して仕事を片付けて、知らぬ間に次の朝が来る。そのまま朝飯も食わず、昼も食べられず、晩の 5 時にやっと食事をするというような日々が、創立当初から 2 年間かっきり続いたものであった」とある。

いかに当時が壮絶な日々であったかがわかる。この草創期の苦難の上に我々が立っている事を忘れてはならない。

1945（昭和 20）年終戦。当時を物語る回顧談に、その悲惨さが滲み出ている。

「学校は夏休みに入っていて、低学年も登校していなかったうえに、上級生も軍需工場におり、それぞれの場所で終戦を迎えた。憲兵隊のいたあとの校舎は、馬糞と銃剣のなかで荒廃し、不気味な真空の時間が油蟬のなきしきる夏を益々空しく感じさせた」。

校舎は焼失こそ免れたものの、憲兵隊の軍靴に踏み荒らされ、“まなびや”と呼ぶにはほど遠い状態にあった。それでも、学園は残った。しかし、そこからの道もまたイバラの道であった。

「敗戦から 5、6 年間というものは、大鉄の命運尽きるかと思われた時期でした。生徒数は 300 人を割り、先生も次第に減って行きました。大鉄の将来は、占領軍の政策でどのようになるのか分かりません。同じような校歴の学校はつぎつぎに姿を消していきました。私は、そのとき思いました。私たちが生み、育てた学校がいま死にかけている、どうせ死ぬなら、せめて最後の死に水だけでもとってやろうと」。

小林先生は大鉄学園の終焉を半ば覚悟されていた。しかし、その思いが周囲の同朋に伝わり、大鉄学園は奇跡的な復活を遂げる。

「先生方に呼びかけたところ、先生方も立ち上がってくれました。一丸となって、涙ぐましいほどの協力があり、努力がなされました。そして、大鉄は、死の床から奇跡のように息を吹き返したのです」。

草創期の我が学園は不屈のチャレンジ精神で、時代の変化を見事に乗り切った。そこにはまた、変化できる力をも見るのである。

第二期胎動期 1940～1950 年代 年表

年	月	出来事	先人たちの言葉	キーフレーズ	社会の動き	文化的背景
1941	3 月	財団法人大鉄学院の許可をうけ、大鉄工業学校創立	大鉄高等学校設立時、立学の精神「学びの友よ 才能は神よりの業 究むるは君が使命、光ある甲斐ある人生、そこに拓く、もろともにいざ」(小林菊治郎総長)	才能は神よりの業 究むるは君が使命	太平洋戦争開始	小学校に代わり 国民学校発足 「臣民の道」各学校へ配布
	4 月	大鉄工業学校開校				
1948	4 月	大鉄工業学校を大鉄高等学校に名称変更	「朝、家を出る。昼も夜も食べないで、夜を徹して仕事を片付けて、知らぬ間に次の朝が来る。そのまま朝飯も食べず、昼も食べられず、晩の5時にやっと食事をするというような日々が、創立当初から2年間かっきり続いたものであった。」(小林菊治郎総長)		極東国際軍事裁判	国立国会図書館開館
1949	4 月	全国選抜高等学校野球大会(春)出場 2回戦敗退			ドッジ＝ライン発表	国立学校設置法公布(国立新制大学 69 校発足)
1951	2 月	財団法人大鉄学院より学校法人大鉄学園と改組	敗戦から5、6年間というものは、大鉄の命運尽きるかと思われた時期でした。生徒数は 300 人を割り、先生も次第に減って行きました。大鉄の将来は、占領軍の政策でどのようになるのか分かりません。同じような校歴の学校はつぎつぎに姿を消していきました。私は、そのとき思いました。私たちが生み、育てた学校がいま死にかけている、どうせ死ぬなら、せめて最後の死に水だけでもとってやろうと。そう先生方に呼びかけたところ、先生方も立ち上がってくれました。一丸となって、涙ぐましいほどの協力があり、努力がなされました。そして、大鉄は、死の床から奇跡のように息を吹き返したのです。(小林菊治郎総長)	私たちが生み、育てた学校がいま死にかけている、どうせ死ぬなら、せめて最後の死に水だけでもとってやろう。・・・大鉄は、死の床から奇跡のように息を吹き返した。	サンフランシスコ講和会議	日本、ユネスコに正式加入

1-3 開学期（阪南大学誕生） 1960 年代



開学当時の校門と学字

1964（昭和 39）年 1 月、はじめて「阪南大学」という名前がこの世に出現した。名称については、さまざまな案が出たようであるが、結局、小林菊治郎先生のご決断により「阪南大学」と決定した。

この年の正月、大学創設準備委員会が開催され、その席上、小林先生がはじめて大学設立の所信を明らかにされた。この中に、今も我々の「教育目標」となっている有名なフレーズが含まれている。

「国際社会における日本の行く先を思案するとき、訪れつつある産業構造の転換の過程で、資源の少ない国家として、日本は必然的に商業立国、貿易立国にその道を探らなければならなくなるでしょう。こうして、今後の日本にとっては、すすんで世界に雄飛していくに足る有能有為な人材、真の国際商業人の育成こそ急務と考えられます。古くから堺商人の歴史と伝統をうけ、さらにまた、今日、新興商工業都市としての将来の無限の開発が待たれるここ南大阪の松原市こそ、もっともそれにふさわしいところではないでしょうか。この地での新しい大学の建設は、やがて、地域社会の開発とあいまって輝かしい発展を期待しうるでありましょう」。

"すすんで世界に雄飛していく" のくだりは、まさにチャレンジ精神を言い表した名言といえるだろう。

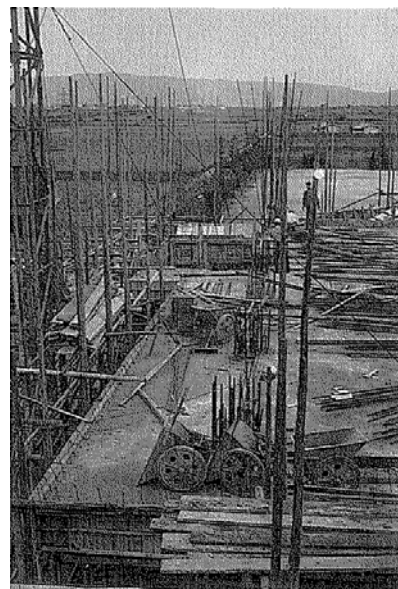
1965（昭和 40）年 4 月、阪南大学開校。入学者 78 名からスタートした。

大学の草創期も、大鉄工学校と同様、教職員、学生のやる気が充満していたようである。

第 1 期生川田五郎氏の言葉を借りると、「学校へ来ることが楽しかったのです。なにかをここで、これからやってみたいと思っていたのです」。歴史のない阪南丸が、大海に漕ぎ出した、そんな情景が浮かび上がってくる。ここでも第 1 期生たちのチャレンジスピリットを垣間見ることができる。

しかし、一方で草創期の学園は、アイデンティティの欠乏に苦しむものである。本学もまた、社会情勢に注目しながら、『大学とは何か』の問いに苦しみながら解答を模索している。

それを如実に物語る出来事が 1968（昭和 43）年 11 月 22 日に、大学役職者（小林菊治郎総長、小林弘展副総長、田中稲穂学長、学生部長、教務部長、人事部長、図書館長、庶務課長、学生課長 9 名）と学友会執行部の間で持たれた会談である。



建設工事中の阪南大学

「理想の大学をめざして、今後の阪南大学を考える」と題して催されたこの会談は3時間にも及ぶ激論となった。しかし、当時の阪南大学は経営基盤もまだ安定しておらず、具体的な将来像の青写真もない状態で、学友会からの質問（学部増設計画、マスプロ教育への対応、教員補充、学費の配分および厚生施設などについて）に十分な回答ができず、終始防戦にまわり、具体的な案を示すことができなかった。

また、この当時の模様を阪南大学新聞創刊号（1969（昭和44）年2月12日発行）が次のように言い表している。

大学とは何か マスプロ化される大学

旧制の大学は、少数ながらエリートを養成する場であったが、現在はどのように変革し、また、社会が求める人間は一体どのような人間であるのか？それはあまりにも社会が大学卒をあらゆる面から多く求め、その為信じられぬ程大学はマスプロ化されていた。どこにその原因があり、また大学の中で学生をどう位置づけるのか。

・・・学園紛争を考えてみる時、大学自体のあり方が、根本的に再び問われるまで追いつめられた感じを強く受ける。東大や日大の紛争を頂点に、今なお、全国で六十数大学において吹き荒れる紛争の嵐は、決してそれが、突発的に起こったものでないことを再確認させるに充分である。

今、我々も、一人の学生として自分自身の立場で、「大学とは何なのか」を問うてみることは決して無駄ではないと思う。大学紛争は、我々に大学の内在するさまざまな矛盾や問題点を極めて明確にすることによって、大学に対する再認識を我々に促せたものと言ってよいと思う。・・・

・・・今なお、大学教育の大部分は、私立大学のそれに委ねられている。はっきりとした現実である。（マスコミが、マスプロ教育を弊害視する場合の対象も、私立大学である）にもかかわらず、国家の私立大学への財政的援助は、微々たるものにしかすぎない。それでいて、国立大学と同等の教育効果を求められる。私立大学は財政的に見ても運営は常に困難である。すなわち、多少にかかわらず、自らを企業化せざるを得ない状態に追い込まれた結果、弊害としてのマスプロ教育は、実に、運営困難の打開策として、必要人数以上の大量入学に伴う、必然的な方法形式であったとさえいえる。・・・

思考をさえぎられ、一方伝達的な授業の中で、「学ぶ」ことの本当の意味を知らない新入生たちにとって、マスプロ教育はやはり、学問に対する疎外感を助長する以外のなにものでもないのである。彼らにとって多人数教育とは単に裏切りでしかなく、もはや大学とは、良い就職のためのパスポートでしかない、とまで考えるのは、果たして行き過ぎであろうか。弊害としてのマスプロ教育を是正する道も、その原因から導き出されると信じる。・・・

・・・我々が大学にあって、専門科目としてのゼミナールや演習にのみ大学に学んだよるこびを知るということは、依然として我々がなお旧態のイメージで大学をとらえている証

拠ではないだろうか。そこにはまた、大学に学ぶことがエリートであるという慢心があるのではないだろうか。だが、我々が一步校内を出たとき、いい知れぬ虚しさを感じることもある。そこには大学生としての誇りや自信が、何かいい知れぬ力の前に脆くも崩れて行く音が聞こえるようである。・・・

我々が、今、大学に在る間にもう一度、「大学とは何か」を問うてみることは決して無駄ではないと思う。本当に、大学とは何だろう？今、再びこの素朴な疑問を発してみたい気持ちにおそわれている。（発行 阪南大学新聞部 責任者 森田 敏夫）

1969（昭和 44）年 5 月、第 2 代学長和田豊二先生は、「大学は社会と孤立したものでなく、社会の中に存在するものであることを、とくに我々大学人は自覚していかななくてはならない」と述べている。

この頃から、阪南大学は社会に向けて貢献することを「次なる使命」と考えはじめている。

さらに和田学長は、「商都大阪の伝統経済の上に立ち、学問を通して深い人生観と広い世界観を養うと共に、新しい経済社会の発展と人類の福祉に寄与できる、世界的視野に立つ



設立当時のキャンパス全景

近代的経済人の育成をその使命とする」と明確に本学の使命を表現された。

“商都大阪から世界的視野に立つ近代的経済人を育成する”つまり、社会、それも世界へ視点を移している。これが今日までの建学の精神となっている。

第 1 回大学祭「世界に眼を開こう」



草創期（阪南大学誕生） 1960 年代 年表

年	月	学長	出来事	先人たちの言葉	キーフレーズ	学部	社会の動き	文化的背景
1960	5 月		奥田政三大鉄学園長 藍綬褒章（らんじゅほうしょう）受章 ※「公衆の利益を興し成績著明なる者又は公同の事務に勤勉し労効顕著なる者」に授与される。	私は熊の魚釣りのように、とった魚がずりおちていくのも構わず進んでいく。小林君はとったものをこぼさぬようにきちと取りしまっていく。私はどちらかというと外交、小林君は内政に秀でておったといえるでしょう。（奥田政三理事・創設者）			日米新安保条約・地位協定調印	全学連等羽田デモ（安保闘争） カラーテレビ放送開始
1961	5 月		小林菊治郎総長 藍綬褒章（らんじゅほうしょう）受章				農業基本法公布	文部省、学力テスト実施
1964	1 月		大学設置準備委員会発足 大学名の候補として、「大阪中央学院大学」、「南大阪大学」、「阪南大学」などが上がっていた。議論の末、小林総長の決断で「阪南大学」と決定した。	国際社会における日本の行く先を思案するとき、訪れつつある産業構造の転換の過程で、資源の少ない国家として、日本は必然的に商業立国、貿易立国にその道を探らなければならなくなるでしょう。こうして、今後の日本にとっては、「すすんで世界に雄飛していくに足る有能有為な人材、真の国際商業人の育成」こそ急務と考えられます。古くから堺商人の歴史と伝統をうけ、さらにまた、今日、新興商工業都市としての将来の無限の開発が待たれるここ南大阪の松原市こそ、もっともそれにふさわしいところではないでしょうか。（小林菊治郎総長）	すすんで世界に雄飛していくに足る有能有為な人材、真の国際商業人の育成		経済協力開発機構（OECD）に加盟	東京オリンピック開催
	7 月		大学設置準備委員会、大学名を阪南大学と決定					
1965	1 月			阪南大学商学部商学科設置認可、産業経済研究所設置				商学部商学科
	4 月	田中稲穂	阪南大学商学部商学科開学、小林菊治郎総長に就任、	たいへんにさみしい入学式でした（学生数 78 名）。しかし、その一方に、これから自分たちが、この大学を創りあげるのだという熱気のようなものも感じられました。当時の学生は、なにか純真、素朴に自分の立っている現状を見つめていたようです。だから、正直言って、新しい大学での生活に、私もそうですが、大きな夢と希望をはっきりと抱いていたのです。入学式の翌日から、学生は、ほとんど休まずに学校へ出席しましたが、やはり学校へ来ることが楽しかったのです。なにかをここで、これからやってみたいと思っていたのです。もちろん、先生もたいへんだったと思います。とくに若い先生方は、毎日のように出勤されていましたが、みんなに活気が溢れていたようでした。（第 1 期生川田五郎氏）	大きな夢と希望をはっきりと抱いていた。なにかをここで、これからやってみたいと思っていた。			
			田中稲穂初代学長に就任	大学としての大きな任務のひとつは、学芸を学び、真理を探究することである。人間は本来、物心両面において、無限に進歩向上すべきものであり、それを可能にする原動力は、人間のもつ知恵であろう。すでに古く先哲は「知は力なり」とか「知は栄光である」との言葉を残している 20 世紀、とくに後半に入ってから科学、技術の進展が人類に与えた影響は著大であるが、これを推し進めるのは大学の任務である。しかし、文明の進歩につれて、貴い人間性が失われる傾向にあるのは遺憾である。この人間性と理想をとりもどして、人類に希望をあたえるべきものが大学であり、高き教養が大学人に要求されるゆえんである。「知と徳、この両面の調和こそが、大学のもっとも望ましい姿ではあるまいか」（田中稲穂学長）	知と徳、この両面の調和こそが、大学のもっとも望ましい姿。			
	6 月		阪南大学学友会（学生自治会）結成					
	8 月		全国高等学校野球大会（夏）出場 1 回戦敗退					

年	月	学長	出来事	先人たちの言葉	キーワード	学部	社会の動き	文化的背景	
1966	4月	田中稲穂	教職課程開設			商学部商学科	日ソ航空協 定・日ソ貿易 支払協定に 調印	国立劇場開 場	
	11月		第1回大学祭「世界に眼を 開こう」	創設日も浅く、未だ2か年を超えず、学友も教養課程の1, 2回生を擁するのみ。 誇示すべき最新の諸施設は建設の途上にあり、いわば阪南大学は、なお草創の 期を脱していない。この時にあたって、早くも全学の進(ほとぼし)る情熱は、ここ に第1回大学祭の壮挙を見る。蓋し、知性を世界に求め、幅広い視野に立つ真 の近代人の育成こそ、国際舞台にその発展の道を願う国家にあって、われら大 学人に課せられた至高の使命と考える。ここに建学の悲願をこめて阪南大学は 出発した。大学祭統一テーマとして、学生諸君の掲げる「世界に眼を」の叫び は、まさしくこの阪南大学立学の理念に則るものであって、いまや建学の精神 が、着々としてすべての学生諸君の胸に培われてゆく姿を私は見る。(小林菊治 郎総長) 3日間、たいへんな人出で、大騒ぎの連続。まるで松原市民際のようなだといわれ ましたが、私たちには、なにか大きなことを仕上げたのだという感動が、心の底に ありました。(大学祭実行副委員長 岸本光司氏)	知性を世界に求め、幅広い 視野に立つ真の近代人の育 成こそ、国際舞台にその発 展の道を願う国家にあって、 われら大学人に課せられた 至高の使命。				
1967	4月						美濃部亮吉, 東京都知事 に当選	ユニバーシア ード東京大会 開催	
1968	4月		司書・司書教諭課程開設				小笠原返還 協定に調印	川端康成ノー ベル文学賞 受賞	
	7月		第1回リーダーズ・トレー ニング(河内長野市観心寺) 約30名参加						
1969	1月			大学歌制定(作詞喜志邦 三、作曲平井康三郎)	阪南大学学歌は、第一回卒業式で、はじめて発表された。作詞者の喜志邦三氏 は再三、阪南大学を訪れ、学生たちとの話し合いを持ちながら、そのイメージづく りに努めた。(不明)			東大安田講 堂に機動隊 出動	東大、東教大 の4学部の入 試中止
	2月		阪南大学新聞創刊	新しい年を迎え、我々学友会は気分を新たに、学友諸君の希望にそえる学友会 にしていこうと決心いたしております。なにぶん歴史が新しく、我々役員も精一杯 の努力をつづけておりますが、学友諸君の一致団結と協力を必要とします。この 機会にさらに大きく飛躍し、阪南の名声を広く世に知っていただき、わが阪南大 学のモットーである少数精鋭教育の新カリキュラムも広く社会にも認識していただ きたいと思います。現在大きな社会問題にまで発展している現実の学生運動を、 客観的に大きな目でとらえ、真の学生のあり方を把握し、質実剛健の精神をこの 阪南大学で学び、社会に役立つ人間性を充分に備えることが、我々阪南大学生 の使命であると信じています。和をもって阪南大学独自の人間関係を充実し、学 生・学友会・学園が一致協力し、阪南大学ここにあり、といえる学園にしたいと思 います。(菅博三学友会委員長 当時)	社会に役立つ人間性を充分 に備えることが、我々阪南大 学生の使命。				
	4月		阪南大学校友会結成						
	5月	和田豊二	和田豊二第2代学長就任	大学は、教育によって社会に奉仕するものである。その方法は、教育によって人 間性の豊かな全人的な学生を社会に送り出すことである。大学が孤高を誇りにし てはならない、社会の中の1つの機関であるゆえんが納得されるべきであろう。 ＜中略＞大学が研究と教育の2面を背負った機関であるかぎり、社会と遊離した 存在であってはならないし、遊離するだけ大学は本来の大学ではなくなってくる。 「大学は社会と孤立したものでなく、社会の中に存在するものであることを、とくに 我々大学人は自覚していかななくてはならない。」(和田豊二学長) 商都大阪の伝統経済の上に立ち、学問を通して深い人生観と広い世界観を養う と共に、新しい経済社会の発展と人類の福祉に寄与できる、世界的視野に立つ 近代的経済人の育成をその使命とする。(和田豊二学長)	大学は社会と孤立したもので なく、社会の中に存在するも のであることを、とくに我々大 学人は自覚していかななくては ならない。 商都大阪の伝統経済 世界的視野に立つ近代的経 済人の育成				

1-4 苦闘期 1970年代

1972（昭和47）年4月、経済学部開設。国際経済人の育成という建学の精神の実現に向けてさらに前進することになる。

1970年代は別の言い方をすれば第1次発展期である。この時代に、同窓会ができ、クラブセンター、6号館、高見の里グラウンド、学生相談室などの諸施設を次々と作り上げている。成長の序幕である。

初の公選制学長選挙で第3代学長に選ばれた碯（はざま）正夫先生は、就任の挨拶で次のように述べている。

「さしあたっての目標を内外からより一層信頼される阪南大学を創りあげることに、学生、教職員、理事者、さらに同窓生の皆さんが、各部署において、できるだけ協力を惜しまれないことを期待したい。・・・いうまでもなく大学は、学問の研究と教育との場であり、教学を通じて、真の意味で社会に役立つ人間を養成することをその使命とする。・・・経営担当の責任をになう理事者は、インフレという名の激浪を防ぎ支える外壁である。外圧だ、海外要因は仕方がないのだという政治家流の責任回避はここでは通用しない。インフレに抗するだけではない。大学をよくするためには必要経費は実質増加を余儀なくせられる。こういう状況の下では、とくに国からの私学助成金の増額の必要性を痛感する。日本の大学教育において私学の果たした、そして現に果たしつつある役割がいかに大きいかは、改めていうまでもあるまい。しかも、学生の学費負担をはじめ、いろいろな点において、国公立と私立との間の格差は余りにも大きく、かつ又年々拡大している。私も本学理事者の一人として、これら諸格差の縮小と解消に努めようと思う。・・・お互い同士が話し合い、意思を交わし合うことが大切である。皆さんの求めがあれば、都合がつくかぎり、私は、あなた方の会合へいつでも出向いていって話したり、聞いたりする。皆さんの方からも学長室へ気軽に越しくださるようお願いする。みんなの知恵と力を合わせて、立派な学園をつくりましょう。規格化したマンモス大学では見られないような独自性をもつ大学を、われわれの手で創造しよう」。

創立から8年、まだまだ発展途上の大学であったが、新興私学として社会に果たせる役割を模索しつつ、教職員が一丸となって独自性を創ることを呼びかけている。

また、碯学長は後に、次のようにも言っている。

「阪南大学は、なお“年若く”、規模もそれほど大きくない。しかし、それだけに他の古い大学にない良さと特徴をもった大学である。因習と固定にとらわれることなく、清新の気風に満ち、自由と創造の精神があふれている。創造性と人間性の尊崇は、本学の建学理念であり、この点は今後ともますます充実してゆきたいと思っている。知・徳・体の三つにまたがるバランスのとれた教育を身につけた人材をつくり、社会に送り出すことは、私たち大学人の念願であり、使命でなければならない」。

「単に自分のために生きるだけではなく、他人の立場をも理解し、温かい連帯の心情を持って行動する者のみが、今日の社会や職場の求めにこたえうるのである」。

これに呼応するかのように、小林菊治郎先生も「本学はこころのつながりを大切にする大学です。学生同士、学生と教職員の間に通じ合う“温かい、そして強い心”があれば、内外の大学で起こっている問題の大部分が解決するのではないのでしょうか」と述べている。

本学が「人間的な心のつながり」に言及したのはこの時が最初ではなかろうか。そこに、「教育愛」をとでもいうべきミッションが言い含められているように感じる。

1976 年の入学案内



1975 年当時のキャンパスと授業風景（辰巳学長）



第一期発展期 1970 年代 年表

年	月	学長	出来事	先人たちの言葉	発信したメッセージ	キーワード	学部	社会の動き	文化的背景
1970	11 月	和田豊二	小林菊治郎総長、勲三等瑞宝章(くんとしうすいほうしょう)受章				商学部商学科	社会の動き 核拡散防止条約調印	文化的背景 万博開催 日国国会
1971	2 月		大鉄学園理事会、経済学部増設を決定	その学問の性格上、系統的にいうと、商学部は専門的、技術的な学術を専攻する学部だといえます。その点、経済学部というのは、商学の基礎的な部門を学ぶ学部だといえます。たとえば、会計、簿記などについていえば、その基礎になるのが経済学なのです。ほんとうに商学部の諸学科をよく理解していくには、経済学関連の各学科目を基礎として、それらの知識を固めねばなりません。また反対に、商学の技術的、専門的な面を理解しなければ、経済学部の学問的内容は理解できないでしょう。いわば、この両者は、たがいに深い関係にあるのであって、この意味では、現在の商学部を、高度に、かつ充実したものに育てていくためにも、経済学部の設立がもっとも重要な要素となります。そして、それはまた、阪南大学の総合大学計画の目標達成への第一歩となるのです。(和田豊二学長)		経済学部の設立がもっとも重要な要素となります。そして、それはまた、阪南大学の総合大学計画の目標達成への第一歩。		油縄返定調印	NHK 総合テレビ全カレラ(普及率 82%)
	4 月		大鉄高校、全国選抜高等学校野球大会(春)出場、準優勝						
1972	4 月		経済学部経済学科開設	商・経という関連学部の併設には、いうまでもなく学問的な相乗効果が強く期待されるが、これによって、阪南大学としては、国際経済人の育成という建学の精神の実現にさらに大きく前進することになるであろう。(和田豊二学長)		国際経済人の育成という建学の精神の実現にさらに大きく前進。	経済学部経済学科	日中共同声明採訪中	高松塚古墳彩色壁画発見
1973	1 月	稲田菊太郎学長代行	和田豊二学長辞任に伴い稲田菊太郎商学部教授が学長代行就任。	阪南大学は、石橋をたたきながら漸進した。しかし、それでも学生の指導に、いくたびかの失敗を重ね、苦況を経験した。ただ、それを乗り越え、新しい成長のステップとしていったところに、この大学の人々のしたたかさがあった。(稲田菊太郎学長代行)	いくたびかの失敗を重ね、苦況を経験した。ただ、それを乗り越え、新しい成長のステップとしていったところに、この大学の人々のしたたかさがあった	石橋をたたきながら漸進、いくたびかの失敗を重ね、この大学の人々のしたたかさがあった		巴相移行急騰	江崎玲児ノルス賞受賞
	4 月		学友会本部、文化会、体育会、応援団に学生委員会から相談役を、各クラブには教員部長を置く	学生の日和見化、ノンポリ化は、大学の発展を阻害し、自由を失うものになる。全学生が研究心に燃え、学問を愛し自由を愛するとき、はじめて、我々に本来の自由が与えられる。(学友会委員長幸阪信男)		研究心に燃え、学問を愛し自由を愛するとき、はじめて、我々に本来の自由が与えられる。			
	9 月		稲田菊太郎学長代行による大学正常化宣言	内容、外観、ともにいちだんと充実した姿をもって、阪南大学は新しい飛躍の第一年を送ろうとしています。諸君も、ともにこの道を力強く歩もうではありませんか。(稲田菊太郎学長代行)					
	10 月	碓 正夫	碓 正夫第3代学長就任	本学はこころのつながりを大切にする大学です。学生同士、学生と教職員の間に通じ合う“温かい、そして強い心”があれば、内外の大学で起こっている問題の大部分が解決するのではないのでしょうか。そこに高い知性に裏付けされた人間形成の場としての大学を見いだすことが出来るのであります。すくなくとも私は、そんな信念のもとにこの阪南大学を設立し、今後もそんなイデア(観念)を敷衍して行きたいと考えています。(小林菊治郎総長)	阪南大学のめざすもの ①創造的な人間を育てたい ②学生と教師、そこに対話があるように ③マスプロ教育を排除したい ④“詰めこみ人間”から“思考人間”へ ⑤国際人としての教養を ⑥そして何よりも「こころ」が通う学園に(大学案内からのメッセージ)	本学はこころのつながりを大切にする大学です。			
				阪南大学は、なお“年若く、規模もそれほど大きくない。しかし、それだけに他の古い大学にない良さや特徴をもった大学である。因習と固定にとらわれることなく、清新の気風に満ち、自由と創造の精神があふれている。創造性と人間性の尊崇は、本学の建学理念であり、この点は今後ともますます充実してゆきたいと思っている。知・徳・体の三つにまたがるバランスのとれた教育を身につけた人材をつくり、社会に送り出すことは、私たち大学人の念願であり、使命でなければならない。こうして徐々にではあるが、着実な足どりで私たち阪南大学は前身している。(碓 正夫学長)		創造性と人間性の尊崇は、本学の建学理念。			

年	月	学長	出来事	先人たちの言葉	キーフレーズ	学部	社会の動き	文化的背景
1974	11月	碓 正夫	創立10周年記念公開講演会(第1部)	この時代にあって、社会がわれわれ大学人に希求する人材とはいかなるものであろうか。もはや、ありきたりのビジネスマンでないことは明らかである。ひとりひとり、新しい企業体制のために新しい知識を身につけた、知性豊かな経営人であり、そしてまた、鋭い国際的感覚と幅広い視野をもった、実行力ある経済人であることが強く求められているのである。(小林菊治郎総長)	鋭い国際的感覚と幅広い視野をもった、実行力ある経済人であることが強く求められている。	商学部 経済学部 経済学科	日中貿易協定調印	佐藤栄作ノーベル平和賞受賞
			阪南大学校友会を阪南大学同窓会に名称変更	阪南大学の学生気質は、地方出身者が多いせいか、どちらかといえば質実剛健の気風を好む。まじめで、飾り気のない朴訥さである。育ちのよさも手伝って、あくせくしたところがない。それに、和やかな語らいの場を背景にして、のんびり人生の典型が、ここ阪南大学には育ちつつあるようだ。(辰巳浅嗣入試委員 当時)	阪南大学の学生気質は、まじめで、飾り気のない朴訥さ。			
1975	10月		創立10周年記念公開講演会	今日の社会は複雑な構造をもっており、創造を絶する激動が続いている。このような世相下で、状況を正確にとらえ的確な判断を下して誤りなく行動しうするためには、深い思慮と賢明な英知が要求せられる。単に自分のために生きるだけではなく、他人の立場をも理解し、温かい連帯の心情を持って行動する者のみが、今日の社会や職場の求めにこたえるのである。(碓 正夫学長)	単に自分のために生きるだけではなく、他人の立場をも理解し、温かい連帯の心情を持って行動する者のみが、今日の社会や職場の求めにこたえる。		警視庁、中核・革マル両派の内ゲバに非常事態宣言	山陽新幹線、岡山ー博多間開業
1976							ロッキード事件	東大大型計算機センター、学術情報をオンライン情報検索サービスにより全国の大学研究者に提供開始
1977	12月	田谷 博吉	小林菊治郎理事長勇退 碓 正夫理事長へ				日米漁業協定調印	文部省、小中学校新学習指導要領で「君が代」を国歌と規定
	12月		田谷 博吉第4代学長就任	阪南大学はテイクオフに入った。さしせまった教育環境の整備に、衆知を集め、忍耐と努力を重ねて対処していく。(田谷博吉学長)			成田空港開港	植村直己犬ぞりで北極点到達
1978	5月		クラブセンター竣工					
1979	9月		6号館・高見の里グラウンド竣工・学生相談室設置	せっかく競争試験に合格して大学に入学したにもかかわらず、退学したり、除籍された学生はたいへんな数にのぼる。各大学の学生生活実態調査によると、学生の多くが自分の生活に満足していないというが、これは、もとより大学側にも問題はあるが、反面また、学生自身に多くの問題が内在しているのである。学生のそのような不安、なやみを真剣にとりあげ、無気力の原因を追究していこうという「学生相談室」の出発は、今後大きい意味を持つものとして歓迎された。(多羅尾敏夫学生課長 当時)			元号法公布施行	国公立大学第1回共通一次試験

1-5 発展期 1980 年代

1982（昭和 57）年 10 月 19 日、創設者小林菊治郎先生ご逝去。享年 83 才。

先生は、永年にわたって子弟の教育実践および私学育成に全身全霊を傾けられ、教育界に大きな貢献をした。偉大な成果を残して、ひたすら教え、かつ教えの場を育てることのみに捧げる全生涯を送られた。

特に私学振興の面に力を注ぎ、自己の教育理想のより直接的な具現を私学経営に求めて、私財を投げ打って設立した我が学園の育成には、死の床に至るまで身を挺してきたといわれる。

座して指揮するではなく、常に自ら額に汗し、手に泥して、東奔西走、幾多の危機を克服する陣頭指揮に終始し、血の通い合う手作りの教育を育むことで、幼児教育から中等教育、高等教育まで幅広い分野で社会の各界に人材を送る強い原動力となった。

この偉大な功績は斯界の人々をはじめ、広く敬意と感謝をもって称えられた。1961（昭和 36）年、藍綬褒章（らんじゅほうしょう）受章、1970（昭和 45）年、勲三等瑞宝章（くんさんとうざいほうしょう）受章、1982（昭和 57）年、正五位銀杯を授与される栄に浴したことによって明らかなところであって、多言は不要であろう。

創設期を共にした奥田政三先生（当時学校法人帝国学園（現大阪国際大学）理事長）が哀悼の念を次のように語っている。

「小林君、僕より若い君が思いもかけず急いであの世へ旅立つとは何とも悲痛の心に堪えません。人間の無常生死の事は思議の外であるという道理はよくわきまえていながらも俄に大きな存在の君を失い追慕の情おさえ難く、深い悲しみを噛みしめています。9 月末柏原病院へ入院の報を聞き、すぐにでも飛んでいきたかったが、折悪しく自分も薬の副作用のため病床にあって、ついにお見舞いに行けず、会いたかった。せめて一目会いたかった。互いに手を握りしめたかった。ただ悔やまれてなりません。

君との交友は誠に長く、その思い出は果てしなく、ただただ胸中にあふれるばかりです。いま眼前に昭和 12 年頃のことが特に懐かしく思い出されます。当時は君も僕も 40 歳台、実に若かった。私立学校の創設に意気が合い、工学校の設立に燃えて立ち上がった二人は私財をなげうち先祖伝来の土地を処分し合い、用地の選考、校舎の建築、書類の作成など共に寝食を忘れ、東奔西走したことが、まるで昨日のように鮮やかに浮かんできます。・・・いま、なすべきことのすべてを立派に為し終え、心も安らかに旅立たれた君の霊は必ずや永久に学園に留まって、その隆昌を見守り、導きの星となることを信じて疑いません。ここに幽明鏡を異にし、いかに念願しようとも再び親しく温容に目見えることのできない今、君を永遠に失った深い痛恨を胸に、長い間の友情、ひとかたならぬ懇情に深く感謝しつつ、ご冥福をこころからお祈りします。

小林君、さようなら。

やすらかに眠ってください。」

私学は、創設者の教育理念や信念が永遠に生き続ける。たとえ、創設者が亡くなってもそれは後生に受け継がれる。だから、どの私学も“建学の精神”を大切に守り続けるのである。

小林菊治郎総長と奥田政三先生がどれほどの思いで、わが学園を立ち上げたのか、この哀悼の句に滲み出ている。まさに巨星が消えた瞬間であっただろう。

また、後を継いだ碓正夫理事長も次のような弔辞を霊前に捧げている。

「先生は、独自の理念をもった優れた教育者であると同時に、常に時代の行く手を先見する卓越した学園経営者でありました。教育と生徒をこよなく愛し、学園の将来のことに日夜思いを致す先生の情熱と、経営にかける強靱な実行力は、晩年に及んで、益々その度を加えたようにお見受けいたしました。我が学園が今日あるは、ひとえに先生の高い識見とたゆまぬ行動力に負うものであると私は確信いたします。・・・私達学園関係者一同は、先生のご創業のあとを引き継ぎ、ご意志を体して学園運営の事業を守り、固め、さらに前進させていく所存であります。このことを、ここに改めてお誓い申し上げ、決意を新たにします」。

教育と生徒を愛してやまなかった創設者を尊崇するコメントである。ここでも創設者が我が学園に抱いていた強い教育愛を感じ取ることができる。

それから1年4ヶ月後の1984（昭和59）年2月、第6代学長柏尾昌哉先生が就任。就任の挨拶で本学の目指すべき方向について次のように述べている。

「経済の高度成長段階における大学教育の高度成長を担ってきたのが私立大学であることは、まぎれもない事実であります。これは、私立大学の存在が、国立大学の補完的地位にあるものではなく、むしろ、大学教育の高度成長の本流となってきたことを物語っています。大学教育の高度成長がもたらした大きな成果は、質の問題があるにしても、一応は大学教育を大衆化したことだといえましょう。進学率の急上昇に示された大学教育の大衆化＝巨大化は、教育対象学生を、従来の質の高い上辺層から、質の低下とともに末広型に拡大する下辺層へ向かって大きく増幅し、膨大な下辺層学生群を包含するようになりました。そして、意欲と学力に欠けがちな下辺層の膨大な大学生群の教育を、大小私立大学が主体となって担当してきたのであります。・・・現在の本学は質量とも飛躍する段階であり、教育・研究において条件的にも体制的にも、より進んだ上の基盤を確立すべきときだと考えます。そうすることによって、本学も大学の質量の充実とともに、学内の大学生層の上辺への移行を早く実現させ、下辺層大学生の将来の減少予測に対応したいと思います」。

1984（昭和59）年の志願者数6,410名。わずか4年後の1988年には志願者数14,603名、そして8年後の1992年に志願者数最大の36,875名となる。いわゆる入試全盛期である。この時代を象徴するかのように、柏尾学長の言葉にも上辺への移行、すなわち偏差値上位大学への転身を臨んでいた節がある。

したがって、1980年代の本学は、それまでの苦難から一転、外部要因による志願者拡大の波に乗り、ポジショニングの修正を試みている。

それとはまた別に、柏尾学長は、従来の教育理念を踏襲する言葉も述べている。

「阪南大学は若い伸び盛りの大学である。自由闊達な気風と生き生きとした創造の精神が学内に充満し、はつらつとした活気がみなぎり新しい伝統として形成されつつある。本学が目指す方向は、適正な規模と体制のもとで、小集団教育を主体にした人間性重視の教育体制の完成である」。

1983年当時のキャンパス



さらに、1988（昭和 63）年 10 月、全国ではじめて女子学生だけを対象とした入試、女子学生特別推薦入試を実施する。



第二期発展期 1980 年代 年表

年	月	学長	出来事	先人たちの言葉	キーフレーズ	学部	社会の動き	文化的背景
1980	2 月	鈴木 稔	鈴木 稔第5代学長就任			商学部 経済学部 経済学科	初の衆参同日選挙	JOC モスクワオリンピック不参加決定
1981							初の北方領土の日開催	放送大学学園設置
1982	10 月 19 日		小林菊治郎総長逝去 (82 歳) 正五位銀杯授与される	先生は、独自の理念をもった優れた教育者であると同時に、常に時代の行く手を見先する卓越した学園経営者でありました。教育と生徒をこよなく愛し、学園の将来のことに日夜思いを致す先生の情熱と、経営にかける強靱な実行力は、晩年に及んで、益々その度を加えたようにお見受けいたしました。我が学園が今日あるは、ひとえに先生の高い識見とたゆまぬ行動力に負うものであると私は確信いたします。私達学園関係者一同は、先生のご創業のあとを引き継ぎ、ご意志を体して学園運営の事業を守り、固め、さらに前進させていく所存であります。このことを、ここに改めてお誓い申し上げ、決意を新たにす次第でございます。(畚 正夫理事長)	教育と生徒をこよなく愛する。		500 円硬貨発行	桂離宮、初の全面解体修理落成式
1983							青函トンネル貫通	東京ディズニーランド開園
1984	2 月	柏尾 昌哉	柏尾 昌哉第6代学長就任				国籍法・戸籍法改正	臨時教育審議会発足
	5 月		大学会館竣工					
1985	4 月			阪南大学は若い伸び盛りの大学である。自由闊達な気風と生き生きとした創造の精神が学内に充満し、はつらつとした活気がみなぎり新しい伝統として形成されつつある。本学が目指す方向は、適正な規模と体制のもとで、小集団教育を主体にした人間性重視の教育体制の完成である。(柏尾昌哉学長)	自由闊達な気風と生き生きとした創造の精神。		男女雇用機会均等法成立	筑波の科学万博開幕
	9 月		阪南大学と大鉄高校の特別推薦入試実施	本学が真理を探究しつつ人間形成を目指す過程で求める優秀な学生とは、意欲をもって真摯な努力を続ける学生諸君であり、伸び伸びと自己の能力に挑戦して行く学生諸君なのである。このたび大鉄高校の諸君を対象とした特別推薦入試制度を設けたのもこのような意図にもとづくものなのである。(柏尾昌哉学長)	求める優秀な学生とは、意欲をもって真摯な努力を続ける学生であり、伸び伸びと自己の能力に挑戦して行く学生。			
	10 月 17 日		奥田政三理事・創設者逝去 (90 歳)					

年	月	学長	出来事	先人たちの言葉	発信したメッセージ	キーワード	学部			社会の動き	文化的背景
1986	4月	柏尾 昌哉	商学部経営情報学科開設、情報処理研究センター設置	入学してくる学生の資質からいっても、私たちがはじめに期待した「要求される人材の育成」という目標には、明るい見通しが立つようになりました。すばらしい卒業生が、やがて、どんどん出て行くことになるでしょう。そのようなことも考えて、これからは、南大阪地区では唯一の情報学科という大学の社会性を考え、研究面においても、さらに地域とのつながりを広めていきたいと思います。ただ、情報科学というのは、これからの学問で、とくに現在の問題として、人工知能とか情報通信などの分野への取り組みが重視されています。現在、私たちは、カリキュラム委員会で、この方面の学科目、教員の配当などを検討していますが、今後開拓していかねばならない問題は、なお山積みしている状態です。(木下 滋経営情報学部長)		南大阪地区では唯一の情報学科という大学の社会性を考え、研究面においても、さらに地域とのつながりを広めていきたい。	商学部商学科	経済学部経済学科	商学部経営情報学科	国鉄分割・民営化関連8法が成立	藤井寺市で2万2000年前とみられる旧石器時代の住居跡が出土
			大鉄高等学校を阪南大学高等学校に名称変更								
1987										朝日新聞阪神支局襲撃事件	広島カープ、衣笠選手に国民栄誉賞
1988	2月		川島 哲郎第7代学長就任		伸び盛りの都市型大学					リクルート疑惑表面化	稲荷台古墳出土の鉄剣に「王賜」の銘文が発見される
	10月		女子学生特別推薦入試実施	女子学生特別推薦入試は、高等学校に対する説明会でも、質問が集中しました。制度そのものはユニークといわれるかもしれませんが、高等学校の進路指導では、切実な問題になっていることがよく分かりました。それほど、女性の社会進出が多様化しているということでしょう。ちょうど25周年を迎えた大学として、はじめて他大学に先駆けて、新しい時代における大学の真の社会的意義を問うてみようとした、ひとつの前向きな試みでしょう。(島浩二入試実行委員長 当時)							
1989	3月	川島 哲郎	8号館竣工	本学は自由でしかも清潔な学風をモットーにしてきた。この学風は順調に根付いているが、将来に向けていっそう大きくのばすことが願いだである。(川島哲郎学長)		自由でしかも清潔な学風をモットー				昭和天皇崩御	佐賀、吉野ヶ里遺跡で国内最大級の弥生時代の環濠集落を確認
	10月		創立25周年記念式典・祝賀会・記念講演会								
	2月		志願者2万人突破	願書の受付の段階からたいへんな騒ぎでした。1日に2000通もやってくる願書を、仕分けして試験場に割り当て、完全に登録してしまうまでに、各課の応援を精一杯に頼んでも、毎日が深夜作業の連続でした。前年度よりは多いと思っていましたが、これほどになるとは予想がつきませんでした。試験場といえば、本校での確保もさることながら、地方試験場の追加設定にも困りました。予定試験場の近くに準備しなければなりませんので、急遽、ホテルにお願いしましたが、当日はそのホテルで結婚式が多かったとか、受験生への影響ははたしてどうだったのでしょうか。もとより、この阪南大学の人気は、大学の質的向上で、その評価が上がったことに原因がありますが、私たちの地味な広報活動も、間接的にこれに寄与したものと、大いに自負したものです。(武富是善入試広報課長当時)							

1-6 転換期 1990年代

1990年代は、動きの激しい時代であった。

1992（平成4）年、36,875名の志願者数をピークに、その後急速に志願者が減り始める。

7年後の1999（平成11）年には5,674名まで落ちる。85%の志願者を失ったことになる。

そんな中で、本学はさまざまな活動を手がけている。

最初に、1990（平成2）年、テレビCMを制作し新しい阪南大学のイメージ作りに腐心している。

1994（平成6）年1月、近隣私学ではかなり早い段階で、大学入試センター試験の導入を決め、センター試験利用入試を始めた。

同年4月、法人名を大鉄学園から阪南大学に名称変更。

同年10月、GYC HALL竣工。翌年4月、シンボルマーク「リバティ・ウィング」制定。

1996（平成8）年、商学部を改組転換、流通学部と経営情報学部を開設。

1997（平成9）年3月、南キャンパス竣工、同4月、国際コミュニケーション学部文化コミュニケーション学科、国際観光学科開設。

ほぼ毎年のように、めまぐるしく動いている。

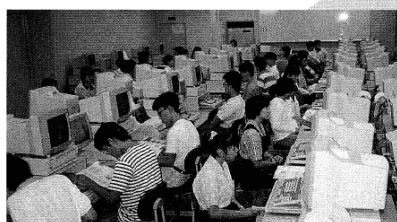


1992（平成4）年度入学試験

OPEN CAMPUS

9月16日（月）の午後1時から午後4時まで、本学にて開催しました。当日不安定な天候の中、539名の受験生（内訳：男性383名、女性156名）と100名ほどの父母の方々が、東は静岡県から、西は岡山県や島根県の遠方からご参加下さいました。

高橋入試部長の講演に始まり、入試委員による個別相談会、図書館・情報処理研究センターの見学や模擬講義などに参加されました。



1991（平成3）年オープンキャンパスの模様 来場者は539名

そういった意味では90年代は本学にとって、転換期であったといえよう。

この当時の大学の行方を、先人たちはどう見ていたのか。

第7代学長川島哲郎先生は、「後発の大学にとって、根本的な課題は、大学の特色をどこに求め、独自の学風をどのように育て上げるかということであろう。本学が大都市圏の既成市街地に誕生した頃、先発の諸大学では広大なキャンパスを求めて、周辺部への再立地が始まっていた。大学の総合化、巨大化も一段と激しさを加えていた。この中で本学はあえて固有の立地と、中規模大学の利点を最大限に活用することに力を注いだ。それは一見時代の潮流を無視するもののように映ったかもしれないが、むしろ大学の特色を、オーソドックスな行き方の中に求めるものであった。本学の特色の形成や学風の培養は、本格的には次の四半世紀の課題である。予めその内容を抱負の形で揚言することは慎まなければならないが、本学が創立以来モットーにしてきた自由で清潔な雰囲気は、この先いつまでも保持し続けたいと願っている」と述べている。

川島学長の後を継いだ第8代学長吉良実先生は、本学の建学の理念（現在の教育目標）について次のように述べている。

「本学の建学の理念は、すすんで世界に雄飛していくに足る有能有為な人材、真の国際商業人の育成ということですから（もっともその表現に多少時代の流れに沿わなくなっているところもありますので、その表現を少し修正すれば、たとえば「国際商業人」という表現を「国際経済人・文化人」というような表現にすれば、建学の基本的な理念に反することなく、本学の将来に向けての建学の理念とすることは十分に可能と思われます。）具体的な改革はこのような建学の理念に沿うような方向での改革が必要ではないか、つまり教育研究の実践の場でそのような建学の理念が生かされるような内容の改革にする必要があるのではないか、と私は考えております」。

また、吉良学長は、本学のスタンスについても次の言葉を使って言い表している。

「21世紀には中規模ではあるが、中堅の押しも押されもしない立派な大学に成長し、南大阪の知に確固たる地歩を固めることができる」。

このように、川島学長と吉良学長のお二人が続けて、阪南大学のポジショニングについて明らかにしている。

それはつまり、松原市に腰を据えて、中規模大学として生き残る決意である。

さらに自由で清潔な雰囲気を大切にしつつ、建学の理念に沿った改革を断行しようという決意も感じられる。

つまり、それがこの時代の本学のミッションだと解釈されていたことを意味する。

転換期 1990 年代 年表

年	月	学長	出来事	先人たちの言葉	発信したメッセージ	キーワード	学部	社会の動き	文化的背景
1990	4 月	川島 哲郎		ここでは自発的な勉強がなにより重視される。だからそれを怠り、ひたすら受動的に、卒業に必要な単位の取得だけに終始すると、大学教育の成果はほとんど実らないことになってしまう。また、礼儀や作法は社会生活に不可欠であり、その基本は他人に対する配慮に発している。高度の知識や学問は立派なマナーに裏打ちされて、初めて本来の輝きを放つものである。昔から商学、経済学系の高等教育機関は、特に厳しい躰を特徴としてきたが、この伝統の真意をよく認識して、自ら切磋琢磨して欲しい。(川島哲郎学長)			商学部 商学科 経済学部 経済学科 商学部経営情報学科		
			テレビ CM 放映	間近に迫ってきた 18 歳人口の激減の波はわが阪南大学にも及ぶこととなりますが、この 25 年の間に培った力と心をもってすれば、その影響は最小限に食い止められると思います。否、むしろ社会情勢に積極的に対応する力を備えるに至った本学にとっては、国際情勢の流動化に伴う日本社会の激変期である今日こそ、その真価を遺憾なく発揮し、更なる発展をとげる時であると確信しております。(小林弘展理事長)	「私の素質はこれからです。」(テレビ CM キャッチフレーズ)				
				後発の大学にとって、根本的な課題は、大学の特色をどこに求め、独自の学風をどのように育て上げるかということであろう。本学が大都市圏の既成市街地に誕生した頃、先発の諸大学では広大なキャンパスを求めて、周辺部への再立地が始まっていた。大学の総合化、巨大化も一段と激しさを加えていた。この中で本学はあえて固有の立地と、中規模大学の利点を最大限に活用することに力を注いだ。それは一見時代の潮流を無視するもののように映ったかもしれないが、むしろ大学の特色を、オーソドックスな行き方の中に求めるものであった。本学の特色の形成や学風の培養は、本格的には次の四半世紀の課題である。予めその内容を抱負の形で揚言することは慎まなければならないが、本学が創立以来モットーにしてきた自由で清潔な雰囲気は、この先いつまでも保持し続けたいと願っている。(川島哲郎学長)		本学はあえて固有の立地と、中規模大学の利点を最大限に活用することに力を注いだ。		国連平和協力法案廃案	国際花と緑の博覧会開幕
1991	4 月				オとなれ。彩であれ。(大学案内キャッチコピー)			ソ連ゴルバチョフ大統領来日、日ソ共同声明に署名	史上最多 1045 勝の横綱千代の富士引退
1992	8 月		研修センター竣工					国連平和維持活動 (PKO) 協力法案可決	毛利衛搭乗のスペースシャトルエンデバー打ち上げ
1993	4 月		財団法人大学基準協会へ加入 (維持会員)	真の豊かさを追求する成熟の時代が求める大学は、外面的豪華さや、感覚的満足だけを売り物にする大学ではなく、内面的な充実と、高度な知的満足を提供する大学であることは明らかです。そしてここでは同時に、大学についても没個性的な画一性ではなく、独自の個性に富んだ多様性が求められるに違いありません。勿論、質的充実は量的拡大と相容れないものでもなければ、無関係なものでもありません。この点は成熟の時代も同様です。とりわけ後発の大学にとっては、質的充実が量的拡大と平行して行わなければならない。本学の場合もまさにそうであります。しかし量的拡大を口実に、質的充実を怠るとき、その大学は、新しい時代における存在理由を、自らの手で放棄することになりでしょう。(川島哲郎学長)	ビジネス界で求められる人材を…阪南大学は常にそのことを考えています。(大学案内キャッチコピー)			ロシアエリツィン大統領来日	大相撲曙が外国人初の横綱

年	月	学長	出来事	先人たちの言葉	発信したメッセージ	キーワード	学部	社会の動き	文化的背景
1994	1月	川島 哲郎	センター試験利用入試導入	大学での勉強はただ教えてもらうという姿勢ではなく、先生方に挑戦するくらいの気持ちで臨んでほしい。冒険心あふれる学生諸君の力がどうしても必要です。(川島哲郎学長)	遊ぶように学び、学ぶように遊ぶ。(大学案内キャッチコピー)	ただ教えてもらうという姿勢ではなく、先生方に挑戦するくらいの気持ちで臨んでほしい。	学部 商学部 経済学部 経営情報学部 商学部商学科 経済学部経済学科	政治改革 関連4法 成立	関西空港 開港
	4月	吉良 実	学校法人名を大鉄学園から「阪南大学」へ変更						
			吉良 実第8代学長就任	決断に時間は要しましたものの、ひとたびお引き受け致しましたからには、私心を捨て、文字通り「誠心誠意」本学発展のために、非力ではございますが全力を尽くし、皆さまのご期待に応えたいと一大決心を致しております。＜中略＞最近世間では「大学倒産論」または「大学淘汰論」がしきりに取り沙汰されていますが、この両論の内容は多少異なりますものの、結果的には特定の大学がこの社会から姿を消すことになることを意味するものであるという点では、共通性を持つ問題であると思います。そして本学は、この問題と全く無縁の大学であるとは言いきれない、というのが私の認識であり、そして本学をそのような問題と無縁の大学にする、その舵取り役をせよというのが、私に与えられた基本的な課題であろうと、私はそのような受け止め方を致しております。＜中略＞本学を「大学淘汰論」と無縁の大学にするためには、高等教育機関としての本学の存在価値が、社会的に評価され得るような内容のある大学にする、そのような目的意識をもって、本学の大学改革に取り組みたいと考えております。本学の建学の理念は「すすんで世界に雄飛していくに足る有能有為な人材、真の国際商業人の育成」ということですから(もっともその表現に多少時代の流れに沿わなくなっているところもありますので、その表現を少し修正すれば、たとえば「国際商業人」という表現を「国際経済人・文化人」というような表現にすれば、建学の基本的な理念に反することなく、本学の将来に向けての建学の理念とすることは十分に可能と思われまゝです。)具体的な改革はこのような建学の理念に沿うような方向での改革が必要ではないか、つまり教育研究の実践の場でそのような建学の理念が生かされるような内容の改革にする必要があるのではないかと私は考えております。(吉良実学長)		すすんで世界に雄飛していくに足る有能有為な人材、真の国際商業人の育成→たとえば「国際商業人」という表現を「国際経済人・文化人」というような表現にすれば、建学の基本的な理念に反することなく、本学の将来に向けての建学の理念とすることは十分に可能。			
			GYC HALL 竣工						
	12月		第43回全日本大学サッカー選手権大会出場 第74回天皇杯全日本サッカー選手権大会出場						
1995	4月		学校法人阪南大学シンボルマーク制定	リバティ・ウィング 「人と学園と社会、叡智と創造と勇気の発展と調和」		叡智と創造と勇気の発展と調和		阪神大震災	野茂英雄 米大リーグ ドジャース 入団

年	月	学長	出来事	先人たちの言葉	発信したメッセージ	キーワード	学部			社会の動き	文化的背景
1996	4月	吉良 実	商学部を改組転換し、流通学部と経営情報学部を開設	国際化・情報化時代に相応しいカリキュラム、教えられる側に立ったカリキュラム。21世紀には中規模ではあるが、中堅の押しも押されぬ立派な大学に成長し、南大阪の地に確固たる地歩を固めることができる。(吉良 実学長)	目覚めよ、若き冒険心(入試案内キヤッチコピー)	中規模ではあるが、中堅の押しも押されぬ立派な大学に成長し、南大阪の地に確固たる地歩を固める。	流通学部流通学科	経営情報学部経営情報学科	国際コミュニケーション学部国際観光学科	住専処理法・金融関連5法可決	原爆ドーム世界遺産に登録
1997	3月		南キャンパス竣工		大阪は経済の都であり、国際交流発祥の地。阪南大学はその地元大学としての責務を果たします。(大学案内キヤッチコピー)						消費税5%導入
	4月	山名 伸作第9代学長就任	国際コミュニケーション学部文化コミュニケーション学科・国際観光学科開設								
			青年はいつの時代でも古いものを否定し、新しいものを求めます。冷静な思慮よりも熱情的な行動に駆り立てられます。青春時代はエネルギーに満ちている一方、自己破壊的な不安定な時期でもあります。スポーツに音楽に熱中しながら、他面では人は何のために生きるのかなどの内面的問題に悩み苦しみます。こうした問題から逃げないで立ち向かってください。＜中略＞今日学問は高度に発達し、極度に専門化しています。けれどもそれはみな理性、知性の活動であります。大学で学ぶのは過去の知識の習得ではありません。カントのいうごとく自分自身の知性を用いる仕方を体得することです。(山名伸作学長)		大学で学ぶのは過去の知識の習得ではなく、カントのいうごとく自分自身の知性を用いる仕方を体得すること。						
			南キャンパス開設								
			大学教育研究所設置								
		図書館一般開放									
	11月	山名 伸作	阪南大学後援会発足							消費税5%導入	アイヌ文化振興法成立
2月	西谷岳文長野オリンピックショートトラック 500m 金メダル										
1998	4月		博物館学芸員課程開設	皆さんは、これからどのように大学生活を送られるのでしょうか。もちろん大学生である以上、勉学が第一であります。すでにみなさんがよく承知されているように、これからの時代は大学を出たということだけで何らかの有利な位置を獲得できるということはありません。第2次大戦後の半世紀にわたる我が国の経済成長を支えてきた年功序列の賃金制度、生涯雇用制度は今や崩れつつあります。大企業、大銀行といえども倒産をまぬがれない時代になってきました。他方、有能な人は高い報酬を得るという時代になってきています。大学卒業時に一定の専門的能力を要求される時代になっています。大学に入ったのだからもういやな勉学から離れたというようなことのないよう、心がけてください。(山名伸作学長)							
		1999		9月	学園創立60周年記念式典(阪南大学高等学校)		創造性あふれる人材の育成を目指して(大学案内キヤッチコピー)		ガイドライン関連法成立	初の脳死臓器移植実施	

1-7 変革期 2000 年代

2000 年代に入ってから、2つのキャッチフレーズが生まれた。

一つは「面倒見の良い大学」。もう一つは「就職に強い大学」。「就職に強い大学」のイメージ作りは、主に学生に浸透していき、2009年に日経BPコンサルティングが実施した大学ブランド・イメージ調査では、桃山学院大学、追手門学院大学を凌ぐ勢いを見せている（有識者、父母の数値はいまだ低い）。徐々にではあるが、「就職に強い大学」のイメージ戦略はある一定の効果は生み出せていると思う。

2000 年代も 1990 年代に続き、動きは活発である。

まず、2000（平成 12）年 4 月に大学院企業情報研究科を開設。

2002（平成 14）年 4 月、阪南大学高等学校が高見の里へ移転。

続く翌年、高校跡地に 1 号館インテリジェントセンターを竣工。大学の敷地と設備はいっぺんに様変わりした。

さらに、2004（平成 16）年 4 月、大阪淀屋橋にサテライトキャンパスを開設。

2005（平成 17）年 6 月、同窓会館竣工。

2007（平成 19）年 9 月、現代GP2 件採択。

2010（平成 22）年 4 月、新 2 号館竣工、同時に国際観光学部国際観光学科開設。

本学は 5 学部 5 学科を擁する総合大学として再出発した。志願者が減り、学生確保が難しくなる一方で、大学の魅力はハード・ソフト両面において増していったように思う。

このように内外ともに変化を遂げてきた 2000 年代であるが、最初に取り組んだ改革に「2001 年度大学改革案」がある。

2001 年 11 月 30 日付けで山名伸作学長が発表したこの改革案は、これまでと違った斬新な視点からの改革案であった。当時、新しく導入した副学長制度によって、初代副学長に国際コミュニケーション学部の堀川紀年教授が任命され、山名学長とともに大学改革を推し進めていった。

まず山名学長は現状認識として、「これまで考えられなかった学生が進学し、これまで考えられなかった試験制度で入学し、これまで考えられなかった教育をする。かつての高等教育を行う場とは全く異なる大学がそこにある。こういう現況に、もはや大学を続ける意味がないと大学の門をたたむか、現状に見合った新しい大学像の下に邁進するか。現実の道は一つしかない。変われなければ取り残されるだけである。ならば、入試制度においても、カリキュラムにおいても、学生指導においても教員のあり方においても、あらゆる面で、これまでの慣習や固定観念にとらわれず、全く新しい大学を創るくらいの覚悟で望むべき時である」としている。

この現状認識を踏まえて、改革案の中心に「寺子屋教育」を据えて、改革の原動力とした。ちなみに「寺子屋教育」とは、激しく変化する海図なき時代に、目標を定めて生き抜く力をつける教育としている。具体的には、人間としての基礎能力（人間力）をつけ、自

らの手で自らの価値を高める（自価を高める）心を植え付け、社会的適応力を身につけることを目的としている。この教育の先に、外から見ても他大学と「目に見えるちがい」を生み出すことを企図している。

改革の具体案は次の4点に絞られる。

① 入試：寺子屋教育においては、選抜する入試から認定する入試へ。

② 教務：リテラシー教育、導入教育、人間教育を重視。

一方通行の授業から双方向の授業へ。高度な教育をめざす学生には別メニューや報酬制度で対応。

③ 就職：1年次から4年間の一貫した進路指導プログラム。

④ 学生：「楽しめる大学」作りをめざす。ハード面は新キャンパス計画で対応。ソフト面は、学内イベントやコミュニケーションの場づくりを充実させる。

これらの改革具体案のうち、大部分は2010年現在、ほぼ成し遂げられている。つまり、寺子屋教育は本学に既に根付いた教育だといえよう。しかし、寺子屋教育は一過性の教育手法ではないので、今後もこの教育理念は継続するべきだと考える。

当時は、ついに訪れた大学危機に具体的な大学改革を遂行した最初の年であったように思う。

その後を継いだ第10代学長大槻眞一先生は、この難局の中、学生たちに次のような言葉で呼びかけている。

「人間は、目標を持って挑戦すれば、その努力の報われる時がきっと訪れるものであります。その意味では、大学生活には厳しさを伴います。これからの大学生活では皆さんが立派な社会人となるための準備もしなければならぬからであります。将来、実社会で直面するであろう困難を飛び越えていくための知恵と力をつける必要があるからです。そのためには、学生生活の中で出会うハードルを恐れず、たじろがず、真正面からぶつかって、解決していただきたい。こうした経験をできるだけ多く積み重ねていくことが大事であります」。

またさらに、「受け身で大学生活を送るならば、これほど無意味なことはありません。自ら積極的に学び、友人や先生に働きかけてください」とも表現している。

これらの言葉にも「能動的なチャレンジ精神」を期待する大槻学長の思いが感じられる。

また、菅博三理事長も同様に挑戦という言葉を使っている。「未完成のものに挑戦することは自分自身にとっても貴重な体験になる。自分の手で一つずつ作り上げるところによさがある。楽しさがある」とチャレンジ精神に触れている。

そして、今の学長、第11代辰巳浅嗣学長はこれまでの豊富な教育経験に基づき、これからの阪南大学の指針を次のように述べている。

「本学の教育の原点は、社会に出て役に立つ実践的な実学教育にあります。そのため、“就職に強い大学”を合言葉として、キャリア教育の充実に努めて参りました。・・・わ

れわれ教職員は、学生諸君が自ら思考し、自立する力を持った人間として社会に巣立って
いけますよう、全力を挙げて支援して参ります」。

「中規模大学として、マンモス大学では実現しがたい“face to face”の教育、このよう
な特徴を今後いっそう強化したいと思います。教育とは「能力を導きだす」(educate)こ
とだと言われますが、阪南大学は幅広い、またユニークな教育を通して、学生たちの限り
ない可能性を引き出すために全力を尽くします」。

さらに 2010 年 4 月、新入生たちに対しては、次のように呼びかけている。

「最近つくづく思うのは、意欲のある学生は必ず伸びるということです。私が学長に就
任してからちょうど 1 年が経過するのですが、その短い間にも実に多くの学生が着実にそ
の成果を示してくれました。阪南大学生であることに誇りを持ち、夢を叶えてください。
意欲ある学生は必ず伸びる、この真実を是非阪南大学で体験してください」と。

意欲ある学生を受け入れ、可能性を最大限引き伸ばしてあげたいと願う辰巳浅嗣学長の
思いが十分に伝わってくる。

こうして、本学は 46 年の歴史の上に立ち、先人たちからの数々の名言を引き継いで、新
しいミッションを作り上げた。

変革期 2000 年代 年表

年	月	学長	出来事	先人たちの言葉	発信したメッセージ	キーワード		学部／研究科					社会の動き	文化的背景	
2000	4 月	山名 伸作	阪南大学大学院修士課程 開設 (企業情報研究科企業情報専攻)	2 期目の課題は、第一は教育内容の充実であります。平成 11 年度に全学で討議していただいた「当面の施策」の実行として、平成 12 年度からアドバイザー教員制、オフィスアワー制を設けます。全学共通科目の改革は平成 14 年度に実施し、各学部も専門教育の新たな編成をしていきます。ハード面では、平成 14 年から、高校跡地と一体化した、従来と面目を一新するキャンパス総合整備事業に着手します。基本計画は平成 12 年度中に決定し、そのイメージ図を学内に掲示する予定であります。このように、わが阪南大学の強みはハード、ソフト両面に明るい展望を持っていることであります。教職員各位のご支援とご協力を得て、学生諸君とともに着実に歩んでまいりたいと思っております。(山名伸作学長)	実力指数を上げる。 (入学案内キャッチコピー)			流通学部流通学科	経済学部経済学科	経営情報学部経営情報学科	国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科	国際コミュニケーション学部国際観光学科	大学院企業情報研究科企業情報専攻	介護保険制度開始	白川英樹ノーベル化学賞受賞
2001	7 月		第 25 回総理大臣杯全日本大学トーナメント優勝		面倒見の良い大学									テロ対策特別措置法成立	能楽、世界無形文化遺産に登録
2002	2 月		西谷岳文・小澤美夏ソルトレークシティオリンピック出場											アフガニスタン復興支援会議開催	サッカー W 杯、日韓共催
	4 月		阪南大学高等学校が松原市高見の里に移転し、中等部を新設 本キャンパス整備事業本格着工												
2003	4 月	大槻 眞一	大槻 眞一第 10 代学長就任											イラク復興支援特別措置法成立	日本郵政公社発足
	12 月		1 号館 (インテリジェントセンター) 竣工												
			第 52 回全日本大学サッカー選手権大会出場 3 位												
2004	4 月		阪南大学国際コミュニケーション学部文化コミュニケーション学科、学科名を国際コミュニケーション学科に変更	学生生活の充実には、3つのポイントがあります。1つは、学ぶ力、勉強する力をつけることです。そのためには、講義を受け身で聞くのではなく、自発的に、積極的に授業に参加していただきたい。2つ目のポイントは、皆さんが、自分の長所に早く気づき、それを伸ばしながら進路を決めることです。3つ目は、コミュニケーションをする力をつけることです。それにはクラブ活動などで積極的に友達をたくさんつくることが大事です。人は生きていくうえで、夢や目標が必要です。皆さんが積極的にクラブ活動に加わり、授業に自ら学ぶという気持ちで参加すれば、自然と友達が増え、楽しみながらコミュニケーションする力が付いてくるでしょう。(大槻眞一学長)	就職に強い大学を目指す	講義を受け身で聞くのではなく、自発的に、積極的に授業に参加していただきたい。								陸上自衛隊イラクへ派遣	綿矢りさ、金原ひとみ、史上最年少で芥川賞受賞

			阪南大学サテライト開設		いっしょに キャリアを 育てよう (入学案 内キヤッチ コピー)				
			阪南大学中小企業ベンチャー 支援センター開設						
	7月			阪南大学は来年創立 40 年を迎えますが、ようやく学 生の皆さんに満足してもらえるキャンパスになってきた のではないのでしょうか。私は大学時代に学友会の委員 長を務めました。あの時の活動が今の自分に何かつ ながっているのではないかと思います。未完成のもの に挑戦することは自分自身にとっても貴重な体験にな る。自分の手で一つずつ作り上げるところによさがある。 楽しさがある。(菅 博三理事長)		未完成のもの に挑戦す ることは自 分自身にと っても貴重 な体験にな る。自分の 手で一つず つ作り上げ るところによ さがある。楽 しさがある。			
	8月		廣田遥アテネオリンピック7位入 賞						
	12月		キャンパス総合整備計画完了						
2005	4月		大学生生活は、自分の中にどのような能力があるか気づ き、発展させるためにあります。これまで大学入学をめ ざして高められてきた能力は、皆さんのもっている能 力のうちほんの一部であります。まだまだ、使われてい ない能力が皆さんの中に、皆さんも気づかず秘められ ています。大学は楽しいところであります。大学はなん でも学ぶことができる場所です。そこには新しい友達 との出会いや、先生との交流があります。そして、最新 設備を整えた図書館や、体育施設も皆さんを待って います。しかし、大学の環境が良ければ良いほど、受 け身で大学生生活を送るならば、これほど無意味なこと はありません。自ら積極的に学び、友人や先生に働き かけてください。(大槻眞一学長)		受け身で大 学生生活を送 るならば、こ れほど無意 味なことは ありません。 自ら積極的 に学び、友 人や先生に 働きかけてく ださい。		JR 福知 山線脱 線事故	個人情報 保護法全面 施行	
	5月		大学の改革は社会のニーズや要請に的確に応えて いくことにあると思います。特に阪南大学では企業が 求める人材を育成して「就職に強い大学」のイメージ を確立すると同時に、経営者の方に実際の経済を教 えていただくというかたちで産学連携を進めていく方 針です。(大槻眞一学長)						
	6月	同窓会館竣工							

年	月	学長	出来事	先人たちの言葉	発信したメッセージ	キーフレーズ		学部／研究科					社会の動き	文化的背景							
2006	2月	大槻 眞一	西谷岳文・小澤美夏 トリノオリンピック出場 1000m9位					国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部	国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部	国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部	国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部	大学院企業情報研究科 大学院企業情報研究科 大学院企業情報研究科 大学院企業情報研究科 大学院企業情報研究科 大学院企業情報研究科	陸上自衛隊イラク撤退完了	改正教育基本法成立							
	4月			人間は、目標を持って挑戦すれば、その努力の報われる時がきっと訪れるものであります。その意味では、大学生活には厳しさを伴います。これからの大学生活では皆さんが立派な社会人となるための準備もしなければならぬからであります。将来、実社会で直面するであろう困難を飛び越えていくための知恵と力をつける必要があるからです。そのためには、学生生活の中で出会うハードルを恐れず、たじろがず、真正面からぶつかって、解決していただきたい。こうした経験をできるだけ多く積み重ねていくことが大事であります。(大槻眞一学長)		学生生活の中で出会うハードルを恐れず、たじろがず、真正面からぶつかって、解決していただきたい。															
2007	9月		現代GP2件採択 「実学指向型総合的キャリアシステムの構築」 「ICTを活用した双方向教育システムの構築」		Career Star (入学案内キャッチコピー)								流通学部 流通学部 流通学部 流通学部 流通学部 流通学部	経済学部 経済学部 経済学部 経済学部 経済学部 経済学部	経営情報学部 経営情報学部 経営情報学部 経営情報学部 経営情報学部 経営情報学部	国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部	国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学部	能登半島沖地震、新潟中越沖地震	集団自決をめぐる高校日本史教科書検定問題が拡大		
2008	8月		廣田遥北京オリンピック出場																	北海道洞爺湖サミット開催	南部陽一郎、小林誠、益川敏英、ノーベル物理学賞、下村壱ノール化学賞受賞
	11月		4年ぶり10回目の天皇杯出場 第32回総理大臣杯全日本大学トーナメント準優勝																		
2009	2月				本学の教育の原点は、社会に出て役に立つ実践的な実学教育にあります。そのため、「就職に強い大学」を合言葉として、キャリア教育の充実に努めて参りました。また、大阪のビジネス街の中心部にサテライトを開設し、学生の就職活動を指導・支援するとともに、企業人を対象とする経営コンサルティングや各種の産学連携講座ないしセミナーを実施しています。ここには卒業生も経営相談等に訪れ、「卒業後も面倒見のいい大学」としての一翼を担っております。われわれ教職員は、学生諸君が自ら思考し、自立する力を持った人間として社会に巣立っていきますよう、全力を挙げて支援して参ります。(辰巳浅嗣学長)		本学の教育の原点は、社会に出て役に立つ実践的な実学教育。														

建学の精神

すすんで世界に雄飛していくに足る有能有為な人材、真の国際商業人の育成

教育目的

教育基本法の本質に則り、学校教育法の定めるところに従い、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、意欲と自主性に満ち、総合的な分析・判断能力を持って国際化・情報化時代に活躍できる人間性豊かな人材を育成すること(学則第1条)

ミッションステートメント(大学の使命)

阪南大学は、自由と清新の気風のもと、チャレンジ精神旺盛な意欲ある学生を育て、幅広い教養を持つ国際的なビジネスパーソンとして成長させることを使命とします。

めざす大学像

- 阪南大学は、「学生成長率ナンバーワンの大学」をめざします。
- 阪南大学は、“face to face”の教育を大切にします。
- 阪南大学は、学生一人一人をどこまでも応援します。
- 阪南大学は、就職に強い大学をめざします。
- 阪南大学は、知の資財を活かして地域社会と国際社会に貢献します。

3つの方針

■アドミッションポリシー(入学者受入れ方針)

阪南大学は、自分の可能性を信じ、積極的にチャレンジする人を求める。

■カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施方針)

阪南大学は、理論と実践を体系的に学ぶ独自のカリキュラムによって、学生の能力をどこよりも伸ばす。

■ディプロマポリシー(学位授与方針)

阪南大学は、国際的なビジネスパーソンにふさわしい幅広い教養と専門知識を身につけ、高度の問題解決能力と社会的適応能力を備えた人材として成長を遂げた学生に学位を授与する。